

<研究テーマ> 現代社会における社会的排除と公共圏について

<目的>

- ① 「社会的排除」に関連したテーマで、質的社会調査を用いた研究を行なっている院生を主体に、輪読会・データセッションなどの研究会を通じて各自の研究力を向上させる。
- ② 各々の研究から、データセッション会によって導き出された知見を、学会報告や論文投稿などを通じて学術研究の発展に寄与する。

<内容>

① 輪読会

主に社会学の古典と位置付けられる著作を課題図書として設定する。各々が設定した図書を輪読会までに購読し、担当パートのレジュメをもとに報告を行う。報告を受け、各々の研究関心やテーマに引き付けた議論を行う。

② データセッション会

調査で得られたデータを文字起こしし、データをもとに議論を行う。社会的排除の実態から、各自の研究の課題を議論から導き出す。導き出された知見をもとに、いかにして成果を社会へ発信、還元していくのかを議論する。

<意義>

- ① 研究会を通じた研究活動によって得られた知見を、学会報告や論文投稿などの形で社会に発信する。
- ② アフターコロナの学修における学び方を模索し、引き継ぐことでピア学習のモデルを提示する。

<研究成果発表方法>

研究会活動を通じて得られた知見を、学会報告や論文投稿などの形で学術研究の発展に寄与することを目標としている。

<進行状況>

6月 Zoom 開催 輪読会 マックス・ウェーバー著『理解社会学のカテゴリー』

7月 Zoom 開催 輪読会 アーヴィング・ゴッフマン著『ステイグマの社会学』

8月 Zoom 開催 輪読会 ハワード・ベッカー著『アウトサイダーズ』